

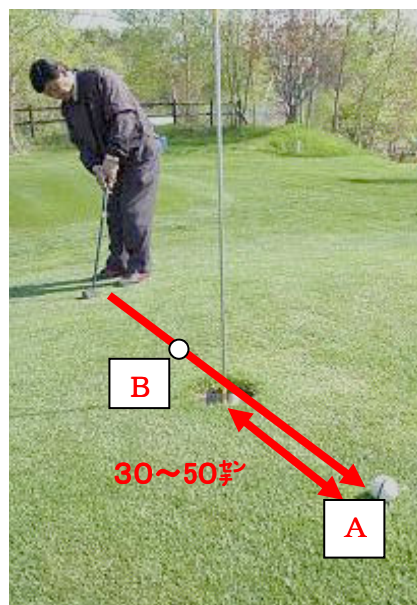
# 第30巻 ラインの読み方、乗せ方、入れ方

## パークゴルフでは、「芝目」よりも、傾斜を見抜くことを優先！

パークゴルフの場合、ボールが大きいいためゴルフより「芝目」に大きく影響されることはありません。ゴルフの場合の曲がり方は、4～5メートルのラインでも、2～3メートル膨らましたラインなど平気ですが、パークゴルフの場合は、極端にそんなには曲がることはありません。パークゴルフにおける一番のポイントは、傾斜を見抜くことです。錯覚に惑わされずに正確に傾斜を把握することが、ライン読みのスタートとなり、ポイントとなります。

### 1、30～50ヤードオーバーさせるスピード感でラインを考える。

カップインさせるために一番入りやすいのは、30～50ヤードオーバーさせる位のスピードのボールです。それ以上強いと、カップに蹴られたり、カップを跳び越したりします。逆に打ち方がそれ以下で弱ければ、カップ手前の「デコボコ」の影響でラインが外れる恐れが出てきます。普通、ラインを読もうとすると、ボールからカップまでを読んでしまいがちですが、30～50ヤード先の地点までのラインを読むべきなのです。(A地点)



カップまでのラインと30～50ヤード先のラインでは、ライン取りも、スピード感も違うはずですが。ライン読みは、方向だけではなく、タッチ(スピード感＝距離感)も必要になってきます。スピードのイメージ作りが大事なのです。

ライン上に、カップを通過してA地点までが真っ直ぐなるようにB地点を探しそこを通してA地点までの、スピード、距離感をイメージして打つことが必要なのです。

**「ナイスタッチであっても、カップまで届かないボールは絶対入ることはない」**を頭に入れて…

## 2、入るラインは強さによって違う！



上図は、フックラインのカップ位置ですが、3つのラインを想定しています。

**青のライン**は強めに打った場合の、ライン取り、**黄色のライン**は一番弱く打って入るラインです。青のラインは1～1.5ストロークオーバーさせるイメージのパット。黄色のラインは最後の回転がりでコロリと入るラインでかなり膨らませたラインです。

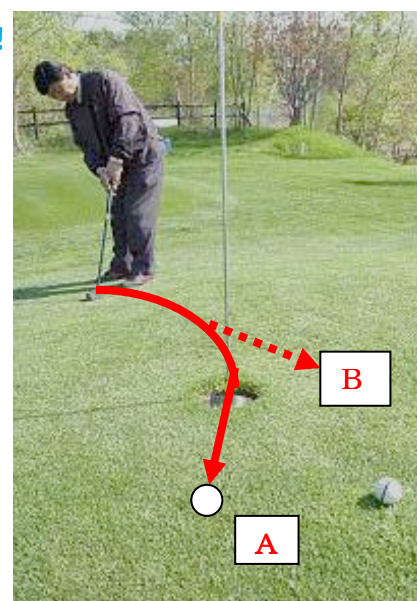
つまり、ボールのカップインするラインは、1本のラインではなく、タッチの強弱により広い幅があるのです。各自ライン取りは、様々な取り方をしていると思いますが、失敗させないライン取りを考えると、青のラインと黄色のラインの真ん中(**赤のライン**)だと思います。速さとスピードが少しずつずれても入ってくれる可能性が十分にある、誤差が許されるラインとなり、3パットを回避することができると思います。

## 3、打ち出すラインに対して、構えカップに向かって構えない！

曲がるラインも打ち出しは「まっすぐ」です。

A地点からB地点と逆算して、打ち出しの方向とスピードを計算します。アドレスは、**カップに向かってではなく、B地点に対して真っ直ぐ構えます。**

平らなラインならどこまで打ったらA地点まで届くか計算し、B地点を通してその距離だけ打ちます。ボールを打つ時は、カップやA地点は頭から消してB地点を通したストレートのラインとして、真っすぐの距離感でストロークすることに専念します。



#### 4、距離に合わせた振り幅を緩めずしっかり振りぬくことが大事！

4<sup>㍿</sup>の距離の振り幅は、これくらいと決めたら緩めずしっかり打つこと。力を抜いたり、力を入れすぎたりしないで一定のタッチで打つことが重要です。



距離に合わせた振り幅を緩めずしっかり振りぬく

#### 4、上りも下りも平らな距離に変換して距離感を出す！

漠然と「上りだから、強く」とか、「下りだから弱く」とか考えて打つと、失敗することが多くなります。

頭の中で考えている「強弱」では、毎回同じスピードで打つことは困難で、距離感にばらつきがでます。

「カップまで5<sup>㍿</sup>だけど、下りだから4<sup>㍿</sup>のスピードで打つ」というふうに考えてください。

あとは、「4<sup>㍿</sup>の平らなパット」だと思ってその距離だけ真っ直ぐストロークするだけです。

こういう考え方をすると、「上り」のパットも「下り」のパットも「バーデーパット」も「ボギーパット」もすべて無駄な力みがなくなり打つことができ、極端にショートしたりオーバーしたりを回避できます。すべて平らなストレートに換算してプレイすることを頭に入れてください。

このように、ラインの読みは**スピード(距離感)**と**向きがセット**になっています。

カップとボールを結んで見たときにそれらを同時に感じられるように「読み」の感性を磨いてください。

※カップとボールを結んだライン上にスパットを見つけそこに対してまっすぐアドレスし、ラインに集中するのも効果があります。



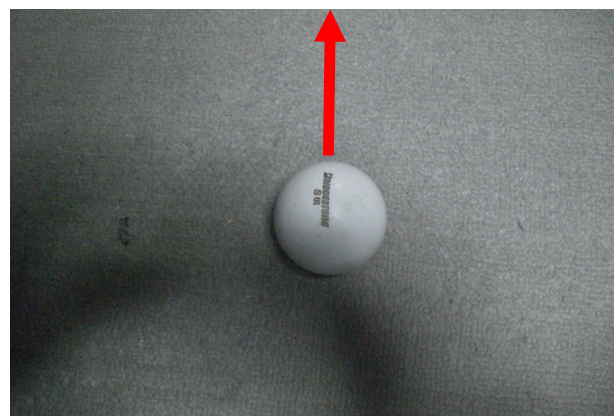
上っているから、4<sup>㍿</sup>だけど、5<sup>㍿</sup>の距離感で……！

## 5、カップから2クラブ以内のボールは、積極的にマークせよ！

現在のルールでは、カップから2クラブ以内のボールは、「お先に！」「マーク！」「そのまま置いておける」の3者択一です。「お先に」で100%確実に入れることができる場合は、「お先に」をし、それ以外は、すべて「マーク」したほうが良い結果になることが多いようです。

2クラブというと、最長で86ヤード×2＝172ヤードです。1打前後のパッティングでも、10球のうち2～3球くらい外す人が多いのですが、それは、カップに対して正しいアドレスが取れていないで外している人が多いように見受けられます。

それを解消するには、「マーク」をしてリプレイスするときに、**カップとボールの直線を結びボールを置きます**。その線を参考に線(ライン)と平行にアドレスを取ります。これだけで、みちがえるようにパットが決まります。ラインが正しく読めても、スタンスを取るときまでに感覚のズレができてしまうことがあるのです。自分では真っ直ぐ構えたつもりでも、右や、左を向いたりすることがあるのです。しかし、ボールのラインを目標に合わせると真っ直ぐ立つことは難しくありません。大切なのは、構えたときの向きです。向きさえ正確ならカップインの確率が非常に高くなります。



ボールのセンターにラインを引きそのラインとカップを結ぶ

ラインを引かなくてもボールの口を利用



カップとボールを結びボールのラインを合わせる